

地区復興まちづくり便りへの意見等

※○番号は第 1 回資料で紹介したものの再掲です。

■検討会の進め方・メンバーについて

①	町全体の復興を地区住民みんなで考え、若い年代の意見も取り入れるべき。(40 歳代 男性)
②	検討会のメンバーの再編成について意見が出ていたが、その点についての回答をまだ聞いていない。再編成が無理なら、とにかくメンバーの皆さんに、この検討会がどれだけ重要な役割なのかということを、再度、認識していただきたい。そのことを理解した上での、形だけではない熱き真剣な議論を願っている。(30 歳代 女性)
③	会議等住民の集会は日中とし、夜は絶対に行わないようにする。交通機関を完備させれば可能ではないだろうか。送り迎えの車（バス）は必ず用意する。(70 歳代 男性)
4	「地区復興まちづくりの会」については個人的に賛成です。 住民で検討を重ねることは不可欠です、が、それを取りまとめた場合や検討した事項を行政がきちんと汲みとる仕組みがなければ会の意味は全くないと思います。行政側も 100 とする構想があるとすれば 100 のうち、いくらを住民意見反映できるかだと思います。会のメンバー選出（面子）によっても議論の仕方が違ってくると思います、その辺は広域参集とするのか、学者や行政出身者で構成するのか全くこちらでも異なってくると思います。個人的には多岐にわたり参集すべきだと思います。その場合考慮しておかないといけないことは、地域性だと思います。ネガティブシンキングの地域性のところも田舎には多いです。纏まる話もそうじゃなくなる場合多々あります。 結論つけると、①会は必要 ②行政主導じゃなく住民も深く加担すること ③参集範囲をよく考える。 以上になると思います。(40 歳代 男性)
5	復興計画も大切に重要な事です。しかし、その事が出来上がるまでの仮設住宅問題も無視できない面が多々あります。消防関係の不備、要介護者問題。若者の雇用問題、情報発信収集に関する難題。被災住民と被災を免れた住民の重い壁というべきか深い溝問題。など様々な問題も取り組みながら進めるべきと思う。(検討会メンバー)
6	今は第 1 回目ですが、これまでの懇談とは違った意見等があったとは思いません。次回からより具体性のある真新しい考え方が出され、しかも民意が反映できるような方向に進むことを期待します。尚、結論はその通り尊重してくれるまちづくりを願います。(検討会メンバー)

■移転先について

①	①近い将来完成する三陸沿岸道路と R45 号線沿いにタテに走る線を基準に集落を 2～3 ヲ所に分担すべき。それぞれに公共施設建設（警察、病院、消防署、学校、幼稚園、保育所等） ・田老町内の高台（2～3 箇所） ・グリーンピア三陸みやこ、沿線の向新田（インターチェンジ予定地） ・あと 1 箇所（余裕を持って） ②グリーンピア三陸みやこの移転先は向新田が良い。 ・向新田は大きな凹凸の山が少なく、R45 号と三陸沿岸道路が走り通勤、通学、病院等に短時
---	--

	間で行く利便性を持っており、自然にも恵まれた地区 ・三陸鉄道を造る時の5～6m幅の道路もあり、国道沿いには水道管も完備され、電気線、電柱も多い ・国や市が土地を買ってくれば近所の人達も協力的 (60歳代 男性)
②	子孫が安心して住めるよう、高台で全てがそろうようなニュータウンが望ましい。住民の高齢化が予想されるので、バリアフリーで、津波記念館等の観光客を呼べる施設もほしい。 (50歳代 女性)
③	現仮設住宅地のグリーンピア用地、檜内地区用地等は使用し、必ずしも一箇所にまとめる必要はないと思います。 (70歳代 男性)
4	高台移転を考えるなら、大団地とすべきである。例えば、500世帯以上として2団地とすべきである。団地の候補地としては、南部（檜内古田地区）と北部（新田地区）が好ましい。双方に市の支所を配置する。 高速道路のインターやルート等もまちづくりの好材料となろう。 旧地区別の移転先に当たっては、特に規制はしない方がよい。自由に住まいを選択させるべきである。 (60歳代 男性)
5	避難の為に今、グリーンピア田老で生活しておりますがバスで通る度に感じる事はバス停「真崎入口」と「新田平」の中間地点で国道45号線の東側を整備すれば相当数の住宅を建てる事が可能と思っております。田老からも近いし是非検討してみて下さい。 新里、川井この地は津波に対して絶対に安全な所であり住宅地として考えに入れて良いと思います。田老平坦部住宅の方々は全て高台を造成し生活する事です。そして広大な平地は仕事場として活用する事を実行し、次に襲い来るであろう大津波に対して備える事が近代の科学技術が進歩している時代に即応した考えだと思います。この場合、目に見える科学技術の進歩の状況は高台造成に表して頂きたいと思います。田老地区に限らず、三陸沿岸住民に求められる事だと思います。 (70歳代 男性)

■防潮堤について

①	防潮堤はできるかぎり高くし、水門は無くしスロープで浜への道路は確保する (消防団員が多数の水門を閉めるのは危険)。 (50歳代 女性)
②	津波防災は、徹底的に高くて大きな防潮堤建設（私は青砂里方面からと野中方面から伸びてくる高さ30m程の長々とした山を築き、できれば山はその地主の所有とすれば建設工事費が節減できると思います。大津波も完全に阻止することです。（田野畑の北山断崖のように） 田代川、神田川、田ノ沢川、荒谷沢川、長内川、の入口に海拔10m程の防潮堤を築き、絶対安全住宅地の建設、田老港を取巻く高台住宅の建設。勿論現在の防潮堤は大切に残すこと。 (70歳代 男性)
3	長々とした、しかも高々とした海岸防波堤を築き、山の所有は元（工事前）の所有者のものとし続ける事。田老の平坦部に迫っている山裾は可能な限り盛土して高台とし、それが為に削られた山の頂きは住宅地として利用すべきだと思います。 大津波で打ち寄せられてきた大量の海水は田老の海岸防波堤で防がれた分だけが感じられて

	残りの量が陸地に入る訳ですから海岸防波堤は高く大きな堅固な事が要求される訳です。防波堤は二重三重に築き、住宅地を襲われない様にしなければなりません。 大津波によって打ち寄せられた海水（大量の）を港の中で完全に防ぐか、はたまた波の一部のみを防ぎ他は川上や陸地の一部に押しやるかしなければなりません。防波堤作りは良くその事を考えて行う事が大事です。現代の人間生活は、高速道路整備に力が入っておりますから市内の事のみに力を入れず宮古市全体に目を注ぐ必要があります。（70 歳代 男性）
4	津波を川に流すというのは危険。津波は川をあがっていくのに被害が拡大するだけ。ましてや、今の北高の周囲に学校を建てると川をあがっていった津波の犠牲になるのは子供達です。（20 歳代 女性）

■避難所について

1	今回の大津波で内側防潮堤内に入った海水が田老一中グラウンドに到達し、グラウンド面から計って 2 m 弱と印されていました。（汚れた海水により判明）この場所はこの地一番の安全なところと評価されているところであり、将来末長く守るべきところであります。津波避難所としてです。どうか 3 m ～ 5 m、一部は 10 m 程の高さに嵩上げして頂きたいと思います。今回の大津波では、内側防潮堤内に大量の海水が入り込んで多くの住宅が多く被害を受けましたが、その中で田老一小の校庭は被害が無かったけれども、田老一中グラウンドには 1.8 m 程の海水の高さが見受けられました。多分内側防潮堤の高さではなかったのでしょうか。田老一中のグラウンドはこの地の中心地点であり、重要な所ですので校庭全部あるいは半分だけでも 5 m 程の嵩上げ工事をしていただければ関係する地区民のための避難場所として両手をあげて賛成されるものと思います。（70 歳代 男性）
---	--

■道路について

①	国道 45 号を防潮堤と同じ高さで海側に整備し防潮堤に厚みを持たせる。（40 歳代 男性）
②	国道 45 号線は安全な高さにするか別ルートで整備すべき。（50 歳代 女性）

■現地再建

①	住民の一部の人達は、早く元の場所に住みたいと思っている。嵩上げせずに建物に条例を制定して、建設を許可したほうが良い。そして、一部補助金も支給する（住宅、店舗）（40 歳代 男性）
2	もとの所に住みたい。他に土地がないから。津波前のように、一日も早く町並びになってきれいな地区となることを願うばかりです。（70 歳代 男性）

■浸水した地区の活用

1	市としては、旧市街地の安全をどのようにして確保するか or どのように活用すべきと考えるか or 住居としての可能性はいかに。（60 歳代 男性）
2	田老の津波被害を受けたところは遠い将来に渡り津波被害危険区域と定め続け、その地で働かなければならない方のために近くの高い山への避難道を欠くことなく完全に整備保存しなけ

	ればなりません。	(70 歳代 男性)
3	防潮堤が 14.7m の高さとなれば住宅、商店は元の（国道沿い）ように教育、医療、公共施設は高台へ。（移転先は宮古北高等学校周辺）	(70 歳代 男性)
4	田老港を前面に眺める事ができる旧田老役場、常運寺あるいは小中学校等は田老地区の中心地としての役割を担わせたとえ周辺に住宅が少なくても良いのではないかと思います。	(70 歳代 男性)
5	旧防潮堤内の地区は多少の土盛りを行い、水害に強い地区にする。国道は今の形状を維持し商店街の復興を支援する。港の市場周辺は人工嵩上盛土とし、その上に加工場等の施設を建て、津波などの非難は青砂里、乙部の高台に逃げやすくする。野中地区に住んでいた住民の方々は太平、兄形、八幡水神方面へ移住。野原地区住民は乙部盛土地区へ移住。旧防潮堤内の住民は盛土した一中校庭に移住。一中の生徒は宮古北高校を兼用使用する。野中地区はスポーツ複合エリアとし、立体駐車場を建て一時避難場所とする。防潮堤には陸間無くし、スロープでの往来とする。たろう観光ホテルは残し、メモリアル的役割で観光施設とする。	(50 歳代 男性)
6	今回津波被害にあった場所に何か一つ施設をたてればまた数年後にはその辺りにまちができる。今のまちは捨てて、高台にまちを造ったほうがよいのではないか。	(20 歳代 女性)

■防災意識・教育について

①	高い防波堤や嵩上げ、人工地盤など、過剰な防御は住民の避難意識を低下させると思う。ハード面においては、「復旧」にとどめるべきだと思う。とにかく、避難教育や避難生活訓練をやり続ける（避難路や避難所の確認、整備も）。ハード面に莫大な予算を投じるよりも、むしろソフト面に全勢力を注ぐべき。人口流失は、もう免れない。福祉の充実（集合住宅などと商店街や病院などを無料バスやタクシーで結ぶなど）、小人数の良さがある教育を目指すべき。世に出ていく若者を喜んで応援してあげられる田老、背中を後押ししてあげられる気持ちを持ち、帰りたくなったら「いつでも帰っておいで！」と広い心で受け止めてあげられる、そんな田老でありたい。	(30 歳代 女性)
2	堤防があったから、逃げ遅れた住民がいたことを最重点として考えるべきだと思います。いくら堤防を高くしても住民の避難意識が薄ければ今回の災害と同じことだと思います。まして高ければ高いほどそうなる可能性は大きいと思います。また、堤防建設には波を防ぐためにつくるのではなく、「いなす」ことに重点を置くべきだと思います。 堤防は「とにかく逃げる時間をかせぐためのもの」と昭和の大津波で流されて生存した祖父から生前 3 月の避難訓練のときに必ず教えられた記憶があります。最近そのことにふれている記事などを目にするのが少なくなりました。何故なのかなと不思議な気がするのは私だけでしょうか。防波堤の高さをうんぬんもいいでしょう。町を高いところに移転もいいでしょう。ただ根本的なことに目をむけないとどこに何をどのような形で作ろうがまたおなじことのくりかえしじゃないかなと思います。 極論ではありますが、この部分をどう考えるかで、前の場所に家を建ててもいいくらいの構想や意見が生まれるのではないのでしょうか？いえ、そのような意見ができるくらいのソフト面構築の発想が生まれてもいいんじゃないのでしょうか？ そういう意見を唱える学者はいますでしょうか？住民はいますでしょうか？皆視点が防ぐも	

	のに行っていないませんか？もし、ハード面にこだわりつづけるのであれば要塞とまではいかなくても、堤防をかなり高くして道路とし、その内側に町を形勢し、すばやく避難できる道路などを行政全面責任のもとでの町づくりできないと住民は納得しないのではないのでしょうか？住民のほとんどは高齢者です。家を建築にもかなりのリスク伴います。そこは皆どう考えているのでしょうか？どのような町にしたいかするほうがいいのかと唱えている学者の面々に伺いたいものです。 もとの生活に近いものを求める住民に行政がどのように説明し、街作りを進めていくか論議したうえで作りあげないと後世に田老を残せない、残しても今回と同じことの繰り返しになり、議論しても議論しても出口が見えないということになりかねないと思います。思い切った指導を行政中心で進められるかどうかではないかと思います。 若い方々に我々は田老を受け継いでいかななくてはいけない義務があるのではないのでしょうか？ 住民の意識すなわちソフト面は地元でしか構築できないと思います、理由として田舎は田舎ほど横のつながりが強く干渉しあっています、いざという時に共有できるものを常日頃から築けていると思うのです。ハードも進めながらソフトをハード以上に考え進め、ソフトは今すぐからでもできることです。仮説住宅にいてもできることです。そこに行政が容易に入れない場合は誰が行動するかというと自治組織やNPOの力を借りるべきだと思います。今から始められることははじめ住民意識を防災に持たせた上でハードについての住民説明などを行うことで、ハードに対しての意見もでてき、理解も生まれやすいのではと思います。 まちづくり＝ハード面だけと認識することは大きな誤解を生むと思います。 議論する事項にもっと視野をひろくし幅広く先をみて議論すべきではないかと思います。 (40 歳代 男性)
3	今回、津波を見た子供達の話聞いたことがありますか。二度と、津波は見たくないはずです。教育施設はもっと高台につくってほしい（例えば新田のあたり） (20 歳代 女性)

■産業について

①	後継者不足で悩むなら、漁業だけにこだわらず、みんなで新しいことにチャレンジしていけばいいと思う。浸水区域を国、県、市が買い上げ、かなりの範囲を農場にして共同経営にしてしまう（浸水区域には人が住まないようにさせる目的もある）。酪農もあるのだから、それらに関連した新たな産業や観光も生み出したり、ネット環境を早く充実させ、若い力が足りない時は、外にヘルプを発信したり、目指すところは、食べ物やら電気も自給率のアップに努め、田舎は田舎らしさを忘れず、都会で疲れ果てた人たちの息抜きになれる、そんな田老を目指したい。 (30 歳代 女性)
②	働くための職場は可能な限りそれぞれの住宅の近くに誘致し、自由競争に管理体制を導入すること。 (70 歳代 男性)
3	田老については、産業復興もまちづくりに対しても他よりも立ち遅れ感が正直あります。視察対応に忙しい団体、他地区の漁村復興をマネしているような独自の発想がない産業団体、これらの団体が田老では先達として先見に明るくなり復興していかないと田老はだめだと思えます。これらに関与する方々も発想を転換してみたほうがいいのかと本当に思います。

	できないなら誰かの助けを他所からかりてもいいじゃないですか。決してはずかしい話でもありません。そのお礼は復興した地域をいち早く見せられることが何よりのお礼になるわけです。 (40 歳代 男性)
--	--

■鉄道について

1	三陸鉄道のシステムをこの期に改良してみてもどうでしょう。北海道では、ローカル線を廃線にしようという流れの中「レールを通常走るがタイヤが出てきて道路を走るのも可能な車体に改良」した所、利用客が増加したという実例を聞きます。現行の通り、三陸鉄道を復旧したとして果たして「赤字路線の解消」「様々なニーズに応える鉄道に成り得るでしょうか。国の補助が大いに期待できる時だからこそレールと道の二つのルートを使える路線に変革し永くマイレールになるチャンスではないでしょうか。 (30 歳代 男性)
---	---